U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 自動車部門の回復が全体を押し上げ(18年6月鉱工業生産)

：2018年7月19日(木)

～火災の悪影響が剥落～

第一生命経済研究所　経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業(NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業(SIC)	生産能力
17/06	＋0.1	(＋1.8)	＋0.1	＋1.0	▲1.5	＋0.2	＋0.2	▲0.6	＋76.2	＋74.8	＋0.0
17/07	▲0.1	(＋1.4)	▲0.3	▲0.2	＋0.9	▲1.3	▲0.2	▲3.8	＋76.1	＋74.6	＋0.0
17/08	▲0.4	(＋1.1)	▲0.2	▲0.6	▲1.5	＋0.4	▲0.3	＋2.3	＋75.7	＋74.4	＋0.1
17/09	▲0.0	(＋1.2)	▲0.1	＋1.3	▲0.8	＋0.9	▲0.1	＋1.3	＋75.7	＋74.2	＋0.1
17/10	＋1.5	(＋2.7)	＋1.3	＋1.4	＋3.2	＋1.7	＋1.3	＋0.9	＋76.8	＋75.2	＋0.1
17/11	＋0.5	(＋3.4)	＋0.2	＋2.0	＋0.3	＋1.1	＋0.3	▲0.3	＋77.1	＋75.3	＋0.1
17/12	＋0.5	(＋2.9)	▲0.0	＋1.1	＋3.2	＋1.4	▲0.1	＋0.7	＋77.3	＋75.2	＋0.1
18/01	▲0.3	(＋2.8)	▲0.5	▲1.0	＋2.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	＋77.0	＋74.7	＋0.1
18/02	＋0.4	(＋3.6)	＋1.4	＋2.8	▲9.6	▲0.5	＋1.6	＋3.9	＋77.2	＋75.7	＋0.1
18/03	＋0.5	(＋3.6)	▲0.1	＋1.4	＋4.2	＋0.6	▲0.3	＋2.8	＋77.5	＋75.5	＋0.2
18/04	＋1.1	(＋3.7)	＋0.5	＋0.7	＋5.7	＋1.8	＋0.6	▲2.1	＋78.2	＋75.8	＋0.2
18/05	▲0.5	(＋3.2)	▲1.0	＋2.2	▲0.7	▲0.0	▲1.1	▲8.6	＋77.7	＋75.0	＋0.2
18/06	＋0.6	(＋3.8)	＋0.8	＋1.2	▲1.5	＋1.4	＋0.7	＋7.8	＋78.0	＋75.5	＋0.2

(注)ｶｯｺ内は前年比

６月に鉱工業生産が前月比＋0.6%、製造業生産は同＋0.8%とともに拡大

18年６月の鉱工業生産は、前月比＋0.6%（５月同▲0.5%）と市場予想の同＋0.5%を上回った（１－５月合計で0.2%ｐ下方改定）。公益事業が前月比▲1.5%と減少幅を拡大したほか、鉱業が原油価格の上昇による活動活発化により拡大を続けるなかで前月比＋1.2%とプラス幅を縮小した。一方、製造業は自動車の大幅な拡大によって前月比＋0.8%と市場予想の同＋0.7%を上回ったが、１－５月合計で0.4%ｐ下方改定された。自動車生産は、５月に部品供給業者の大規模火災の影響によるトラック組み立ての混乱を主因に落ち込んだ反動により、大幅な上昇となった。また、３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率では、製造業生産が５月の特殊要因による落ち込みの影響が残存し＋1.9%（前月＋2.5%）と鈍化したが、鉱工業生産は＋6.0%（前月＋5.1%）と加速し、拡大モメンタムは強さを増した。米国の生産活動は、貿易戦争を警戒しながらも、内外需要の拡大によって堅調さを維持していると判断される。

業種別では、木材、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、自動車・同部品、航空機・その他輸送設備、繊維、石油・石炭、が拡大に転じたほか、化学が加速。

自動車部門を除く製造業生産は、前月比＋0.3%（５月同▲0.4%）と自動車部門の回復の他部門への波及により増加に転じた。また、自動車を除く鉱工業生産は前月比＋0.2%（５月同0.0%）と拡大に転じた。

業種別にみると、非鉄、家具・関連製品、その他耐久財が減少に転じたうえ、アパレルが減少幅を拡大した。また、食品・飲料・タバコ、プラスチック・ゴム製品、その他製造業が減少を続けた。さらに、印刷・同サポートが鈍化した。一方、木材、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、自動車・同部品、航空機・その他輸送設備、繊維、石油・石炭、が拡大に転じたほか、化学が加速した。また、電気設備・部品、紙、一次金属は前月の落ち込みから、前月比変わらずに改善した。

稼働率では、設備投資の加速による生産能力の拡大が続く一方、生産の縮小を背景に鉱工業全体が78.0%（前月77.7%）と上昇した（市場予想78.3%）。また、製造業は生産の縮小によって75.5%（前月75.0%）と上昇した。

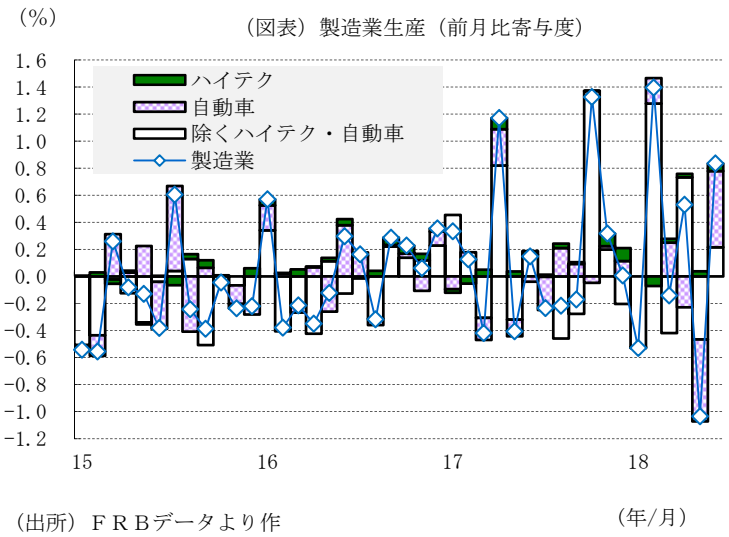
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

４－６月期の生産活動は小幅加速にとどまったが、一時的要因を考慮すれば堅調さ持続

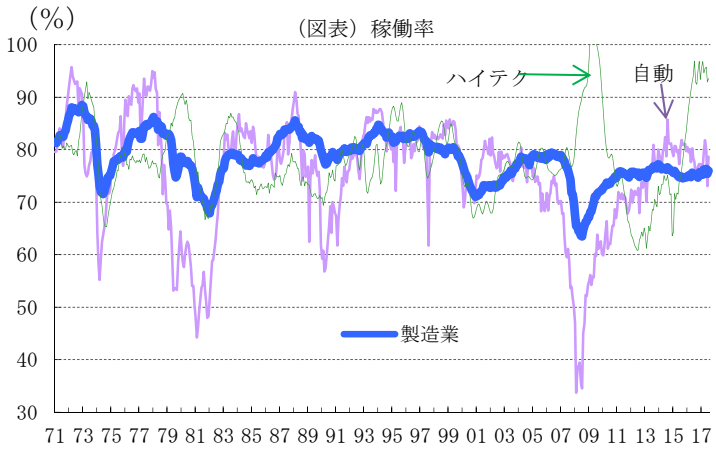
四半期でみると、４－６月期の鉱工業生産は鉱業、製造業の加速のほか、公益事業が増加に転じたため前期比年率＋6.0%と１－３月期の同＋2.4%から加速した。製造業生産は４―６月期に前期比年率＋1.9%と自動車の落ち込みにもかかわらず、１－３月期の同＋1.7%から小幅加速した。４－６月期の製造業生産は、１－３月期に前期の急増の反動で鈍化したものの、小幅の加速にとどまった。もっとも、部品供給業者の大規模火災の影響によるトラック組み立ての混乱を主因に自動車生産が大幅に落ち込んだこと、コンピューター、一般機械、一次金属、加工金属等の拡大傾向を考慮すれば、製造業生産は堅調さを維持していると判断される。

18 年の生産活動は小幅加速

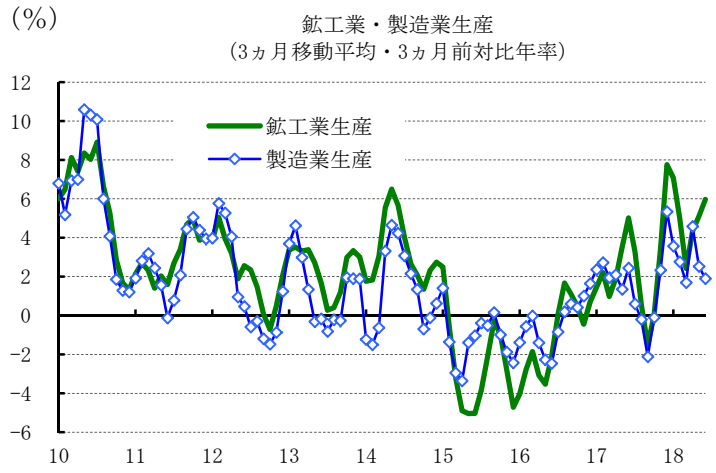
18年の生産活動は、高い水準のドル実効レートや貿易戦争によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向の持続や原油価格が昨年よりも上昇すると予想されること、在庫に過剰感がないこと等を背景に小幅加速すると見込まれる。18年の製造業生産が＋2.1%（17年＋1.2%）、鉱工業生産が＋3.7%（同＋1.6%）と予想する。



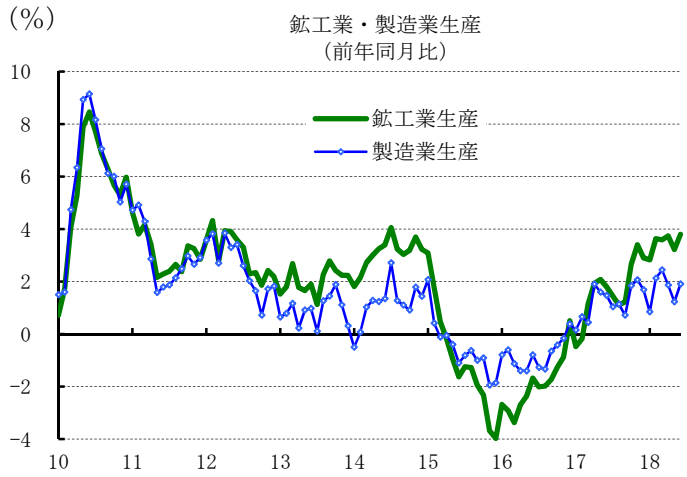
（出所）ＦＲＢデータより作



（出所）ＦＲＢ

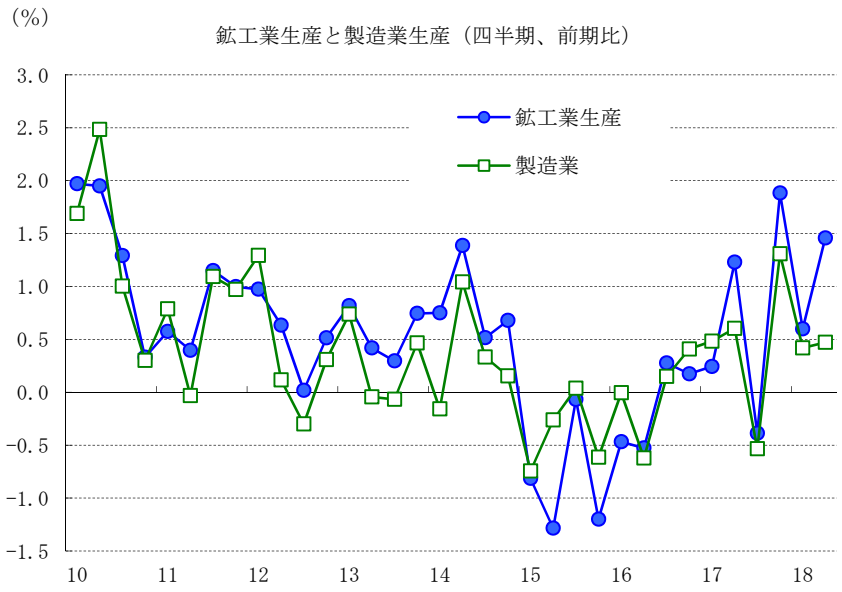


（出所）ＦＲＢ



（出所）ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



（出所）ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。